

後期高齢者医療制度

【問合せ】 市民課 国保年金係 ☎773-6661

保険証の自己負担割合

毎年、同一世帯の後期高齢者医療制度加入者の前年度所得に応じて、医療費の自己負担割合を判定します。7月下旬に送付する新しい保険証に記載されている自己負担割合（1割か3割）は、8月1日(木)から1年間適用されます。

1割負担となる人

同一世帯の後期高齢者医療制度の加入者の中に、市・県民税課税所得が145万円以上の人がない場合

3割負担（現役並み所得者）となる人

同一世帯の後期高齢者医療制度の加入者の中に、市・県民税課税所得が145万円以上の人がある場合

※市・県民税課税所得が145万円以上の人がある場合でも、世帯の収入・所得状況が基準額未満であれば、申請により1割負担となります。該当すると思われる人に、市民課から通知書を送付します

令和元年度の保険料と納付方法

7月中旬に、年間保険料額の通知書を送付します。

保険料の納付方法は、「特別徴収（年金天引き）」「普通徴収（納付書か口座振替）」「最初は普通徴収で10月から特別徴収に切り替わる場合」の3通りです。納付方法はそれぞれ異なります。7月中旬に届く通知書をご確認ください。

特別徴収…年金から天引きで納める人

時期	4月	6月	8月	10月	12月	令和2年2月
方法	天引き	天引き	天引き	天引き	天引き	天引き

10月～令和2年2月の納付額は、確定した年間保険料額から、4月～8月の納付額を差し引いた残額を納めていただきます。

普通徴収…7月から納付書か口座振替で納める人

時期	4月～6月	7月～令和2年3月
方法	納付なし	納付書か口座振替

年間保険料額を、7月～令和2年3月の年9回に分けて納めていただきます。

月々の保険料額は、通知書に記載されています。

※年度途中で、納付方法が納付書や口座振替から年金天引きに変わる人がいます。その場合、年間保険料額から、納付書や口座振替による納付済額を差し引いた残額を納めていただきます。年間保険料の合計額は変わりません

保険料の決まり方

均等割額	+	所得割額	=	年間保険料額
36,900円		(前年中の総所得金額-基礎控除額33万円) × 7.40%		(限度額62万円)

保険料の軽減制度（申請手続きは不要です）

(100円未満切捨て)

●平成30年中の所得の状況に応じた軽減

保険料の均等割額が世帯の所得状況に応じて、8.5割、8割（注1）、5割、2割軽減されます。

（注1）世代間の医療費負担の公平などを図る観点から、今まで特例で9割軽減の対象だった人は、令和元年度は、8割軽減に変更となりました。8割軽減の対象者で、住民税非課税世帯の人は、年金生活者支援給付金の支給などの支援策の対象となります

●制度加入の前日に会社の健康保険などの被用者保険の被扶養者であった人への軽減

被扶養者軽減は令和元年度から、制度加入時から2年間のみ「均等割額」が5割軽減となりました。「所得割額」はかかりません。（市町村国保、国保組合などは対象外です）

※今後発送する後期高齢者医療保険料額決定通知書などは「平成31年度」と表記しています。

「令和元年度」と読み替えてください

納付方法の変更 保険料を年金天引きから口座振替に変更できます

納付方法を変更する場合は、市民課と金融機関の両方で手続きが必要です。詳しくは、国保年金係にお問い合わせください。

手続きに必要なもの 振替口座の情報（口座番号など）、通帳の届出印、保険証

※家族の口座からの振替にすると、社会保険料控除は実際に負担をした口座の名義人に適用されます。このため、世帯全体の所得税や市・県民税額に影響する場合があります。ご注意ください